

Showa Denki Group

2019 Round.7 AUTOPOLIS



J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Infomation 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 SUPERBIKE RACE in KYUSHU

開催日：2019年10月5日(予選) 10月6日(決勝)
大分県・オートポリス (1周4.674km)
観客動員数：6,435人 (2日間合計)

J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛

マシン：HARC-PRO. HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE
予選：3番手 (タイム：1分52秒100)
決勝：2位

ST600 クラス #71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：14番手 (タイム：1分55秒367)
決勝：14位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：13番手 (タイム：2分11秒474)
決勝：14位 (INT：7位)



弊社広報社員ライダー

J-GP2 クラス #634 名越 哲平 (写真中央)
J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛 (写真右)
ST600 クラス #71 上原 大輝 (写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



弊社社員ライダーの名越哲平が激戦を制してシーズン3勝目！
■名越 哲平 J-GP2 class 第7戦 オートポリス レース結果
予選：P.P 決勝：優勝



昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクشنナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



【71Project Riders】

■JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda

■ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki

■J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido

■JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama

■J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita

■JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round.7 AUTOPOLIS

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama

Mistrésa RT
SOG HARC-PRO

榎戸育寛が悔しい2位。タイトル争いは最終戦決戦へ



全日本ロードレース選手権はシリーズ第7戦を大分県・オートポリスで迎えた。2019年シーズンも今回を含め残り2戦。前戦、岡山ラウンドで優勝し、チャンピオンの可能性を引き寄せた榎戸にとって、連勝し、さらに接近したいところだ。前週に行われた事前テストでも HARC-PRO、HP6q+ブリヂストンタイヤというパッケージで初めてオートポリスを走ったにも係わらず、ステップバイステップでセットを詰めることができトップタイムをマーク。シーズン終盤に来て、ライダーとメカニックの息も、いいレベルに仕上がって来ていた。上原も着実な成長を見せており、激戦のST600クラスでポジションを確立しつつある。



ST600 #71 Daiki Uehara

オートポリスは、阿蘇の山間部にあるサーキットだけに、天候に悩まされることが多い。今回は比較的、天気恵まれた方だが、木曜日は霧と強い雨に見舞われ、金曜日の1本目はウエットパッチが残る状態。さらに日曜日の朝も霧と雨のためにウォームアップ走行は、半分ウエットとなった以外は、ドライコンディションで行われた。

公式予選では、ポールポジションを狙っていたものの、少し狙いを外してしまい思ったようなタイムを出せず不完全燃焼。それでも1分52秒100までタイムを縮め、3番手とフロントロウを確保した。

レースは波乱の展開となる。スタートから榎戸は、名越選手とトップ争いを繰り広げマッチレースの様相を呈してきていた。しかし、7周目に転倒車がコースに残ってしまったため赤旗中断。ヒート2は、6周の超スプリントレースで争われることになる。

仕切り直しとなったレース。榎戸は、好スタートを見せホールショットを奪うとレースをリード。名越選手と作本選手も続き三つ巴の激しいバトルが繰り広げられる。

迎えたファイナルラップ。3番手につけていた榎戸は、1コーナーで一気にトップに浮上！3コーナー、第1ヘアピンと勝負どころを抑え、運命の第2ヘアピンを迎える。榎戸をトップに、名越選手、作本選手の順で進入して行くが、ここで何度もレイトブレーキングを見せていた作本選手は、イン側から突っ込んでくる。ちょうど榎戸がターンインに入ったところ、接触しそうになり回避するラインを取ったところマシンが振られてしまいはらんでしまう。そこを名越選手が前に出て行き榎戸は2番手で第2ヘアピンを立ち上がる。何とか勝負を仕掛けようとする榎戸だったが、名越選手をかすめることはできず悔しい2位。昭和電機の広報社員ライダーが1-2フィニッシュという結果となった。この結果、名越選手が135ポイント、作本選手が129ポイント、榎戸は128ポイントとなって、最終戦・鈴鹿決戦を迎えることになった。



J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido

ST600の上原は、事前テストから今シーズン一番の仕上がりをを見せていた。予選では、自己ベストを更新する走りで14番手。レースでは、序盤の混戦でポジションを下げるものの、追い上げのレースを見せる。集団を抜け出すと、レース終盤には、前のライダーに追いつき、残り3周でパス。14位でチェッカーフラッグを受けている。

JP250クラスは、今回も土曜日に予選・決勝が行われた。事前テストはなく、金曜日から走り始めるが、1本目は中途半端なコンディションのためキャンセル。実質1本ドライブで走っただけで予

選を迎えることになっていた。赤間は、昨年の反省点を生かしたセットをベースにアジャストして行き、自己ベストのコンマ2秒落ちまで出して予選13番手。決勝では、レース中盤以降、12番手争いを繰り広げ13位でゴール。反省点の残るレースとなった。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

■榎戸育寛コメント

「事前テストでトップタイムでしたし、レースウイークに入ってもトラブルもありましたが流れはよかったです。予選では、ちょっと外してしまった部分があったので不完全燃焼でしたが、決勝に向けてマシンも仕上がって来ていましたし、いいレースができる自信がありました。いいレースだったと思いますが、勝てなかったのが悔しいですね。次戦の鈴鹿は、一番好きなコースですし、ぜひ勝ってシーズンを締めくくりたいですね」

■上原大輝コメント

「スタートはよかったのですが、集団に飲まれてしまいダンゴになってしまったことで、前の集団に置いて行かれてしまったのが、ポジションアップできなかった要因だと思います。ただ、事前テストからのマシンセット、コース攻略などの流れは、チームの皆さんのおかげで今シーズンの中で一番よかったと思います。この調子で最終戦鈴鹿は、もっと上で走れるように全力を出したいと思います。応援よろしくお願いたします」

■赤間 清コメント

「走る時間が少なかったというのは、周りと同じですが、バイクの調整に気を取られすぎて、ライディング面での改善に取り組みなかったのが反省点ですね。レースでは、タイヤのマネジメントをうまくできず、中盤以降で厳しくなっていました。その状態でのライディングができたはずだったのですが、他車とのバトルで熱くなってしまった部分がありました。次回の最終戦では、自己ベストを更新して、いいレースをして笑って終われるようにしたいと思います」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで